

「第56回日本緑化工学会大会」案内（第3報）

第56回日本緑化工学会大会運営委員長 今西 純一

第56回日本緑化工学会大会を2025年（令和7年）9月8日（月）～10日（水）に京都大学芝蘭会館及び大阪・関西万博会場で開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

まだ参加申込なさっておられない皆様も、当日料金でご参加いただけます。ただし、現地見学会は定員に達したため受付を終了しています。

本案内（第3報）では、主に大会プログラムについてお知らせします。

その他詳細については、下記URLからご確認ください。

第56回日本緑化工学会大会 開催のご案内

<https://www.jsrt.jp/taikai.html>

1. 大会プログラム

(1) 日程：2025年（令和7年）9月8日（月）～10日（水）

1日目 2025年9月8日（月）

9:15	大会受付開始
10:00	開会挨拶
10:15～11:00	ポスター発表コアタイム A
11:15～12:45	研究集会(1), (2)
12:45～14:00	評議員会
14:00～15:15	総会, 学会賞授賞式
15:30～17:30	公開シンポジウム
17:45～19:30	情報交換会
10:15～17:30	ポスター展示, 企業展示

2日目 2025年9月9日（火）

9:00～10:00	口頭発表(1)
10:00～11:00	口頭発表(2), (3)
11:00～11:45	ポスター発表コアタイム B
12:00～13:30	研究集会(3), (4)
13:45～15:00	口頭発表(4)
13:45～15:15	研究集会(5)
15:15～15:45	優秀ポスター賞授賞式, 閉会挨拶
8:45～14:00	ポスター展示, 企業展示

3日目 2025年9月10日(水)

8:50 大阪・関西万博会場 東エントランス広場 集合

9:30～11:30※ 現地見学

11:30～※ 大阪・関西万博会場の自由見学, 自由解散

※ 当日の混雑状況により, 現地見学会の開始・終了時刻が前後する可能性があります。

(2) 1・2日目タイムテーブル

9月8日(月)

	8			9			10			11			12			13			14			15			16			17			18			19		
場所	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30			
2階ホール前				受付																																
稲盛ホール※				開会式						研究集会(1)						総会・授賞式						シンポジウム														
山内ホール										研究集会(2)			評議員会			使用不可（情報交換会準備のため）															情報交換会					
2階ロビー				ポスター コアタイムA			ポスター，企業展示																													
別館研修室 1				休憩室											理事会で使用			休憩室																		
1階応接室	（大会本部）																																			

9月9日(火)

	8			9			10			11			12			13			14			15			16			17			18			19			
場所	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30
2階ホール前	受付																																				
稲盛ホール※	口頭発表(1)			口頭発表(2)						研究会集(3)						口頭発表(4)			ポスター賞授賞式・閉会式																		
山内ホール	使用不可			口頭発表(3)						研究会集(4)			研究会集(5)																								
2階ロビー	ポスター、企業展示						ポスター コアタイムB			ポスター、企業展示																											
別館研修室 1	休憩室																																				
1階応接室	(大会本部)																																				

※ 稲盛ホール内での飲食は一切禁止されています。

(3) 会場までのアクセス

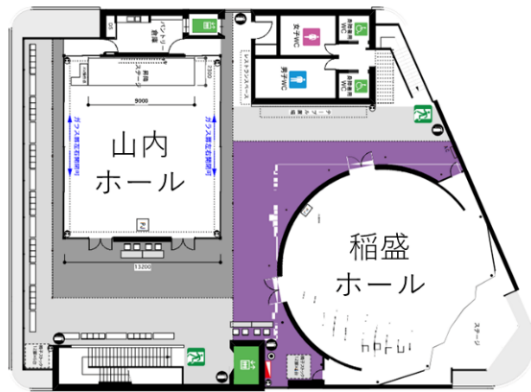
1・2日目 京都大学芝蘭会館・別館(京都市左京区吉田近衛町・吉田牛ノ宮町)

<https://www.med.kyoto-u.ac.jp/facilities/shiran/access/>

3日目 大阪・関西万博会場(大阪市此花区夢洲)

<https://www.expo2025.or.jp/expo-map-index/access/>

(4) 1・2日目会場 芝蘭会館 2階平面図



稲盛ホール内は飲食禁止です。

芝蘭会館ウェブサイトの図を改変して掲載
<https://www.med.kyoto-u.ac.jp/assets/files/facilities/shiran/guidance/figure02.pdf>

(5) 別館2階 研修室1（休憩室）へのアクセス

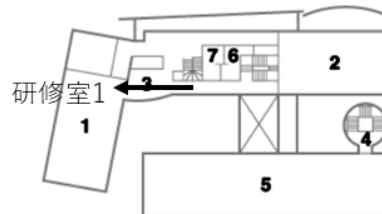
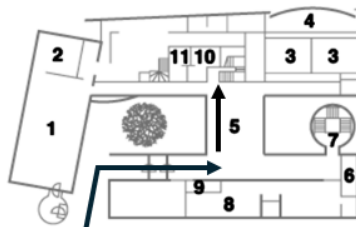
芝蘭会館別館

1階

- | | |
|---------------|----------|
| 1.カフェ | 7.EV |
| 2.カフェ個室 | 8.芝蘭会事務局 |
| 3.和室 | 産学情報交流部 |
| 4.日本庭園 | 9.受付 |
| 5.ロビー | 10.男子便所 |
| 6.自販機コーナー・喫煙室 | 11.女子便所 |

2階

- | | |
|--------|--------|
| 1.研修室1 | 5.宿泊室 |
| 2.研修室2 | 6.男子便所 |
| 3.ホワイエ | 7.女子便所 |
| 4.EV | |



- ②カフェの右横を抜け、建物に入り、2階へ。 ③2階研修室1が休憩室です。Wi-Fiも使えます。
- ①車両等に気をつけて道路を横断します。

芝蘭会館

芝蘭会館別館ウェブサイトの図を改変して掲載
<https://www.shirankai.or.jp/facilities/guide/floor/index.html>

(6) 1・2日目会場のWi-Fiについて

Wi-Fiは京都大学芝蘭会館別館2階の研修室1（休憩室）で使用可能です。主会場となる京都大学芝蘭会館ではeduroamのみを使用可能ですので、ご注意ください。大学関係者はeduroamを使用できますが、事前の設定や当日の接続方法については各自の所属大学からの案内をご確認ください。

2. 口頭発表（論文，技術報告）

口頭発表プログラム

A: 論文, T: 技術報告

口頭発表(1)

9月9日(火)	9:00-10:00	稲盛ホール	座長：福井 亘（京都府立大学）
No	タイトル	著者	
O-01-A	モバイルレーザーによる森林内空間と微気象との関係	富田明花・加藤 顕・森本淳子・石山信夫・崎山智樹	
O-02-A	ドローンレーザーで作成した樹冠高モデルから森林内ササ分布の推定	加藤 顕・菊地未宙・澤田義人・蝦名益仁	
O-03-A	滋賀県大津市旧仰木村における柿(<i>Diospyros kaki</i> Thunb.)の分布と利用の変化	川東夏子・大原 歩・中井美波・深町加津枝	
O-04-T	公園の施設と高木の3次元モデル作成手法に関する研究	金 甫炫・飯塚康雄・森岡千恵	

口頭発表(2)

9月9日(火)	10:00-11:00	稲盛ホール	座長：大塚芳嵩（大阪公立大学）
No	タイトル	著者	
O-05-A	張芝工による外来草本植物の根系を含む土供試体のせん断特性と法面方位の影響	宗岡寿美・内藤綾乃・山崎由理・小林健嗣・永井 晶・中島直久・木村賢人	
O-06-A	表層崩壊後のレガシー活用緑化における初期の植生回復プロセス	重野真修・春口菜帆・厚井高志・桂 信也・石山信雄・森本淳子	
O-07-T	施工から7年経過した緑化植物の根茎の調査	佐藤厚子・山木正彦	
O-08-T	令和6年能登半島地震による奥能登丘陵尾根付近の微地形への影響	中村華子	

口頭発表(3)

9月9日(火)	10:00-11:00	山内ホール	座長：岡田準人（大阪産業大学）
No	タイトル	著者	
O-09-A	トンボ幼虫の個体数に影響を与える水草・水質・周辺環境	出口敬涼・福澤加里部・崎山智樹・石山信雄・森本淳子	
O-10-T	圧縮空気によるエアレーションがシラカン苗木の生育に及ぼす影響	高橋輝昌・磯 和華・石井匡志・荻野淳司	
O-11-T	植物の長さや葉面積による炭素固定量の簡易推定法の検討	尾上 萌・中村真優・高橋輝昌・中村純子・関根大樹・荒井幸司	
O-12-T	建築物屋上における多肉植物セダム2種の逸出リスクの評価	中村嘉一・高橋 興・青山恭久・笠松滋久・山本高広・石塚正秀・小宅由似	

口頭発表(4)

9月9日(火)	13:45-15:00	稲盛ホール	座長：小宅由似（香川大学）
No	タイトル	著者	
O-13-A	千葉県太平洋岸における離岸堤設置が外洋性海浜の植生に与える影響	成川央庸・山田大我・甲野耀登・大黒俊哉	
O-14-T	メッシュシート被覆によるオオイタドリ (<i>Fallopia sachalinensis</i> (F. Schmidt.) Ronse Decr.) の地下茎の抑制に関する調査	佐藤厚子・山木正彦・石田健一・樋口法大	
O-15-T	公園を活用した園芸療法プログラムによる心理的効果の検証	林 まゆみ・丸目みすず・福田栄子・根来文恵	
O-16-T	秋田県に自生する在来種を使った緑化工事の事例報告	沓澤 武・吉原敬嗣	
O-17-T	炭素貯留を目的としたバイオ炭が緑化樹木の肥大成長および樹高成長に及ぼす影響の評価	大西竹志・石黒一弘・根津郁実・石栗 太	

口頭発表要領

1. PC 接続環境

- 会場には Windows PC を設置しており、PowerPoint あるいは PDF で発表可能です。使用される場合は、USB メモリ等でデータをご準備ください。
- ご自身の PC を持ち込まれる場合、HDMI あるいは RGB ケーブルによる接続が可能です。必要に応じてアダプタ等をご持参ください。

2. 発表時間

発表・質疑時間は1題あたり14分（発表12分、質疑2分）、発表者の交代時間は1分を想定しています。セッションごとに座長を設定していますので、当日は座長の進行に従ってください。

3. ポスター発表（論文，技術報告，研究交流発表）

ポスター発表プログラム

コアタイムA：Day 1 (9/8) 10:15-11:00

ポスター番号末尾

コアタイムB：Day 2 (9/9) 11:00-11:45

A: 論文, T: 技術報告, R: 研究交流発表

番号	タイトル	著者	発表日
P-01-A	定年退職後の初期に参加する社会活動における農的活動の効果	那須 守・星田遼太・岩崎 寛	Day 1
P-02-A	事業所規模およびワークスタイルから見たオフィス緑化の現状と勤務者の満足感	梅原瑞幾・岩崎 寛	Day 2
P-03-A	天然芝および人工芝を歩行した際の生理・心理的效果に関する基礎的研究	星田遼太・岩崎 寛	Day 1
P-04-A	間伐と間伐木を利用した筋工設置を行ったスギ・ヒノキ林における8年間の表土移動	島田博匡・沼本晋也・野々田稔郎	Day 2
P-05-A	草本植物根系が斜面表層の安定性に及ぼす影響に関する基礎的研究	矢尾板晃弘・中村 大・横井竜馬・川口貴之・川尻峻三・宗岡寿美	Day 1
P-06-A	令和元年房総半島台風によるマテバシイの根返りに影響した根鉢厚と樹冠形の検討	白雪・小林達明・高橋輝昌	Day 2
P-07-A	陣場山山頂に植栽したアキノキリンソウおよびコオニユリの当年性苗の3年間の生育状況	山田 晋・濱田耕太郎・伊藤在由・川口征也・丸山 元	Day 1
P-08-A	二次林林床における非選択下刈りが常緑性多年草ヤブラン (<i>Liriope platyphylla</i> F.T.Wang et Tang) の生育・着花に及ぼす影響	中島宏昭	Day 2
P-09-A	東北地方太平洋沖地震に伴う地盤の沈降と隆起がイヌセンブリの分布に与えた影響	宮本寛史・岡 浩平・松島 肇・黒沢高秀・平吹喜彦	Day 1
P-10-A	湿原再生地における成立植生に係る要因―未利用農地地盤切り下げ事業地の事例―	中谷智喜・福澤加里部・田崎冬記・川嶋啓太・石山信雄・森本淳子	Day 2
P-11-A	日別降水量から算出した先行降雨指数APIによる緑化のための全国の乾燥特性評価	中村彰宏・中桐貴生・植山雅仁	Day 1
P-12-A	温暖化する北海道に適した植生工の検討	横井竜馬・中村 大・矢尾板晃弘・佐々木裕一・葛蒲哲也・宗岡寿美	Day 2
P-13-A	北海道におけるスズランの葉緑体ゲノムの遺伝変異とそれら分布の地域間差	我妻尚広・森 志郎・原 悠里・岡本吉弘	Day 1
P-14-T	建設工事現場の仮囲い緑化に対する印象評価	田中花佳・岩崎 寛	Day 2
P-15-T	個人デスクへの植物設置が勤務者の心理に与える効果―本物とフェイク植物による比較	吉原裕人・小笠原秀治・荒井菜穂美・那須 守・岩崎 寛	Day 1
P-16-T	トチノキ (<i>Aesculus turbinata</i> Blume) 個体群の開花期間における養蜂巣箱の連続重量計測システムの構築	飯田義彦	Day 2
P-17-T	北海道に生育するカタクリの葉緑体ゲノムtrnL intron およびtrnL 3' exon - trnF 領域の遺伝変異	我妻尚広・春木龍央・森 志郎・東 隆行・岡本吉弘	Day 1
P-18-T	落ち葉敷きの雨庭における土壌動物相と雨水浸透性能のモニタリング	相澤章仁・伊東雄樹・長野龍平	Day 2
P-19-T	丘陵地における微地形および植生管理に応じた土壌動物相の差異	石毛茉希・橋川 慧・山田 晋	Day 1
P-20-T	高速道路緑地の点検支援を目的としたマニュアル作成とシステム開発	清水海優・太田英治	Day 2
P-21-T	マテバシイ風倒被害林での在来常緑樹苗木の初期生育	銭谷卓人・高橋輝昌・小林達明	Day 1
P-22-T	多段式プランター型壁面緑化の炭素固定量の測定	尾上 萌・高橋輝昌・中村真優・中村純子・関根大樹・荒井幸司	Day 2
P-23-T	海岸・海崖に近い舗装道路脇の間隙における海崖植物の生育事例	村上健太郎・丸山貴太・斎藤 匠	Day 1
P-24-T	釧路湿原幌呂地区における地盤切下げ後の植生変化	田崎冬記・川嶋啓太・青木菜々花・稲垣乃吾・神田房行	Day 2

番号	タイトル	著者	発表日
P-25-R	横浜横須賀道路金沢支線 能見堂トンネル上部の植生復元に関する報告	築瀬知史・仁藤 健・大井美穂	Day 1
P-26-R	狭小街路向けの「新しい街路樹用中高木剪定マニュアル」の作成	長嶋大貴・福原修斗・三橋勇太・佐藤澄仁	Day 2
P-27-R	低茎水辺植物の生育の維持と栄養塩の関係	辻 盛生	Day 1
P-28-R	人工給水による大山緑地の長期的湿地維持機能の検証	辻 修・堤 公宏・中島 直久	Day 2
P-29-R	猪苗代湖南部の防風湖畔林の分布及び樹林構成	大澤啓志・上野可蓮	Day 1
P-30-R	埋立地の芝生地における新植栽木と芝生地に侵入した周辺の既存植栽木の根系	広永勇三	Day 2
P-31-R	植栽法面における緑化20-36年後の下層植生の特徴	小宅由似	Day 1
P-32-R	着生ランの移植による保全の試みーカヤラン移植5年経過から見えてきたことー	水野崇行・浦田光章・今関哲夫・蘭光健人・山下由美	Day 2
P-33-R	里山林における林冠種と樹種多様性が生態系サービス価値に与える影響ーi-Tree Ecoによる金銭的評価	江口則和・高原 凜・佐藤加奈・小寺樹生・佐藤 晴	Day 1
P-34-R	間伐による立木密度の違いがヒノキ単木の根系生長に及ぼす影響	大野千星織・初芝達也・三本 恵・登坂拓矢・佐藤貴紀・橋 隆一	Day 2
P-35-R	炭酸化した木質バイオマス焼却主灰を含む植生基盤材に植栽したコウライシバの生育評価	小林紀子・織邊尚子・繁泉恒河	Day 1
P-36-R	バイオ炭混合土壌が植物生育に与える影響の評価	石崎琢也・織邊尚子・小林紀子	Day 2
P-37-R	異なる光条件下で生育したコナラとアベマキの実生苗木における貯蔵炭水化物が萌芽の発生に与える影響	新名啓太・桐本留奈・小坂茉那・西崎真子・小笠真由美・三木直子	Day 1
P-38-R	保存状態の違いが地域性種苗(チガヤ)の発芽に及ぼす影響	西村 倉・中島敦司	Day 2
P-39-R	燃焼時間の違いがヨシススキの再生に及ぼす影響の検証	榎本 唯・中島敦司	Day 1
P-40-R	石礫層の厚い生育基盤の透水性がクロマツとタブノキの引き倒し抵抗性に与える影響	佐々木綾香・佐藤貴紀・橋 隆一	Day 2
P-41-R	土壌表面付近における酸素濃度の変化	岸本大地・大西智貴・中島敦司	Day 1
P-42-R	マツ菌根菌の影響を受けた土壌の浸透能に関する実験	小川泰浩・明間民央	Day 2
P-43-R	草本植物の根系を含むマサ土の強度特性	末武侑大・落合博貴・佐藤貴紀・橋 隆一	Day 1
P-44-R	シカの食害で斜面植生が変化しても樹木根系による土壌補強強度は変わらないのか?ーオオバアサガラとケヤマハンノキの水平根引き抜き抵抗力の比較ー	佐久間楽奈・佐藤貴紀・橋 隆一	Day 2
P-45-R	シカ不嗜好性植物アセビの水平根による伸長方向別の土壌補強強度	奈良きらり・佐藤貴紀・橋 隆一	Day 1
P-46-R	クサヨシを利用した植生工の表流水に対する侵食防止効果に関する基礎的研究	堤 経心・中村 大・村上悠一郎・館山瑛地	Day 2
P-47-R	砂質土からなる盛土法面に対する植生シート工の侵食防止効果の解明	館山瑛地・中村 大・村上悠一郎・堤 経心	Day 1
P-48-R	砂草帯の砂丘地形の勾配の違いが海岸林およびその後方の飛砂捕捉量に与える影響	鈴木ひかり・菊池俊一	Day 2
P-49-R	耐降雨性に優れた環境配慮型植生工法ー施工実績:大阪万博 静けさの森(在来種客土吹付工法)ー	鈴木 翔・竹内 健一	Day 2
P-50-R	物理特性の異なる道路舗装材に応じた無脊椎動物群集の応答	山元駿介・平岩将良・早坂大亮	Day 2
P-51-R	大阪府南部の古墳・神社・都市公園におけるアリ類多様性の比較	今西亜友美・今西純一	Day 1
P-52-R	堺市的前方後円墳「黒姫山古墳」の墳丘樹木群落の種組成および構造	吉田 葵・中村彰宏	Day 2
P-53-R	閉鎖空間における観葉植物ボトスの空気改善機能の評価	安藤穂歩・山本高広・小宅由似	Day 1
P-54-R	在来コケ植物によるPhytoremediationの可能性	浅井俊光・水野百音	Day 2
P-55-R	在来種の追加植栽による人工島緑化地の植生の変化	奥山颯大・柏木圭太・川田直人・任 睿・石井弘明	Day 1

番号	タイトル	著者	発表日
P-56-R	深層学習を用いたツルヒヨドリ発見手法の検討	徳丸慶太郎・久高紘大・出岐大空・ 梅林俊太郎・仲宗根早海・ Meza Tudela Alejandro	Day 2
P-57-R	茨城県つくば市全域を対象としたナガミヒナゲシ(<i>Papaver dubium</i>)の目視調査による空間的可視化と出現状況の傾向	吉川慎平・吉川千春・小田幸子	Day 1
P-58-R	自治体発信のナガミヒナゲシ(<i>Papaver dubium</i>)に関する注意喚起情報の追跡調査結果とキーワード検索需要の傾向分析	吉川慎平・小田幸子・吉川千春	Day 2
P-59-R	睡眠の質の向上に寄与する日常行動及び地域環境の検討	惣田すず佳・大塚芳嵩・今西純一	Day 1
P-60-R	東京都23区内の民間再開発の緑地における利用ニーズの実態把握	鷲見泰弘・横田樹広・上野裕介	Day 2
P-61-R	うめきた公園における緑の多面的機能の検討	岡田準人・山本 聡・大塚芳嵩	Day 1
P-62-R	能登半島地震被災地の仮設住宅団地に整備されたオープンスペースの効果検証	手代木 純	Day 2

ポスター作成・発表要領

- ポスターサイズ
 - サイズは A0 (縦 1189 mm×横 841mm) のスペースに収まるように作成してください。
- ポスター掲示方法
 - 各自指定のスペースへ貼り付けをお願いします。なお、貼り付けに必要な道具は大会運営委員会で用意致します。
- ポスターの掲示開始時刻
 - 掲示は 9 月 8 日 (月) 朝 9 時半頃から可能となります。
※時間は変更の可能性があります。
- ポスター発表コアタイム
 - コアタイム A は 9 月 8 日 (月) 10:15~11:00, コアタイム B は 9 月 9 日 (火) 11:00~11:45 です。
 - 発表者は、指定されたポスターコアタイムにポスターの前に立ち、説明や質疑応答を行ってください。
- ポスターの取り外し
 - 9 月 9 日 (火) 14 時までには必ずポスターを取り外し、お持ち帰りください。なお、ポスター等の廃棄は、大学内で行わないでください。取り外されていないポスターのある場合には、大会運営委員会で処分することがございます。予めご了承ください。
- 優秀ポスター賞の表彰
 - 応募者は、優秀ポスター賞表彰式まで会場にお残りください。

4. 公開シンポジウム

「緑化の未来を拓く！森林・草地生態系における植物群集形成の科学」

日時：2025年9月8日（月）15:30～17:30

会場：稲盛ホール

概要：

生物多様性保全への意識の高まりとともに、緑化においても生物多様性への配慮がより一層求められるようになっていきます。これまでも地域の自然をモデルにして樹林や草地の形成が行われた事例はありましたが、今後はそのような事例が増えて行くことが予想されます。様々な緑化の手法が開発され、取り扱い実績のある植物の数も増えてきている中で、緑化によって形成可能な植物群集も多様になり、地域の自然をモデルにした緑化も実現しやすくなりつつあります。しかし一方で、目標とする植物群集を確実に形成できるという段階にはまだ至っておらず、実現には様々な課題を抱えています。本シンポジウムでは、森林生態学や草地生態学の分野で活躍する研究者を迎え、地域の自然をモデルにした緑化における目標設定、緑化や植生管理のあり方、実践事例についてご講演をいただいた後、討論を行います。植物群集形成の科学という視点から、緑化の未来を見据える機会にしたいと思えます。

司会・趣旨説明	今西純一（京都大学）
講演 森林生態系の視点から	石井弘明（神戸大学）
講演 草地生態系の視点から	山田 晋（東京農業大学）
講演 実践事例とその課題	橋本佳延（兵庫県立人と自然の博物館）
討論	

5. 研究集会

研究集会(1)「緑化工学を活かした災害復興支援を考える」

日時：2025年9月8日（月）11:15～12:45

会場：稲盛ホール

企画者：災害対応検討委員会（仮称）

代表者：上野裕介（石川県立大学）

概要：

頻発・激甚化する自然災害に対し、緑化工学は何かができるのか。日本緑化工学会では「災害対応検討委員会（仮称）」を新設し、より良い防災・復興支援の在り方の議論を開始した。本集会では、委員会の設立趣旨と活動方針を広く共有するとともに、過去の災害対応の知見を交えながら、現在進行中の能登半島地震・豪雨からのグリーンインフラ復興の取り組みを一事例として紹介し、緑化工学が果たす役割と可能性を多角的に議論する。

研究集会(2)「生態系創出資材としてのバイオクラストの可能性を考える」

日時：2025年9月8日（月）11:15～12:45

会場：山内ホール

企画代表者：木村圭一（国立環境研究所）

概要：

土壌藻類やコケ類が地表面に形成するバイオクラスト（BSC）は植物と同様の生態系機能を持ちながら、植物より環境ストレス耐性が高い。このため乾燥地やのり面を中心に植生導入に代わる土地修復法として期待されているが、その適用可能な環境には一考の余地がある。本集会ではバイオクラストについて概説したのち、のり面、乾燥地、極地、果ては宇宙と、環境が全く異なるバイオクラストに関連する研究や活動を紹介する。最後に様々な環境に適用可能な生態系再生・創出ツールとしてのバイオクラストの可能性と課題を議論する。

研究集会(3)「緑化植物・地域性種苗のよりよい使用に向けて」

日時：2025年9月9日（火）12:00～13:30

会場：稲盛ホール

企画者：生態・環境緑化研究部会

代表者：中島敦司（和歌山大学）

担当者：中村華子（金沢大学）

概要：

生態・環境緑化研究部会で進めてきた各プロジェクト、担当者の研究成果では、あらためて緑化植物の有用性を確認することにもなった。適切な取り扱いを行うことで効率的かつハイパフォーマンスな緑化は実現性が高い。そこで今回改めて「適切な種子の取り扱い」を整理したい。

研究集会(4)「OECMで生きる！都市・農村地域における生物多様性の保全と再生」

日時：2025年9月9日（火）12:00～13:30

会場：山内ホール

企画代表者：今西亜友美（近畿大学）

概要：

近年、国際的な生物多様性保全の枠組みにおいて、OECMの重要性が注目されており、日本においても自然共生サイトの認定が進められている。こうした取り組みは、都市域や農村など、従来は保全対象とされにくかった空間にも新たな意義をもたらしている。

本研究集会では、都市・農村域を対象として、個別の保全対象を超えた地域レベルでの生物多様性の保全と再生の可能性について議論を深める。さらに、行政・研究者・地域実践者の連携による保全の在り方や、生物多様性の主流化に向けた自然共生サイトの活用方法を模索し、持続可能な地域づくりに資する知見の共有を目的とする。

研究集会(5)「技術交流会 自生種苗（地域性種苗）の功罪について」

日時：2025年9月9日（火）13:45～15:15

会場：山内ホール

企画代表者：築瀬知史（東日本高速道路）

概要：

日本道路公団は、平成4年度（1992）に高速道路周辺に自生する樹木の苗木（自生種苗と呼称）を使用できるか否か、自主研究に着手した。世の中では、平成16年に外来生物法が公布、吹付で使う牧草が要注意外来生物に記載。日本緑化工学会では、法律に呼応するかのように、草本を含めた名称として地域性種苗と名付けた。パブコメでは、賛否入り乱れての議論となったが、法律の上を行き、要注意リスト上の植物の使用も制限するという意見が多くを占め主流となっている。これらの記載にはとらわれず、様々な線引きについて、若手技術者限定でグループディスカッションを行います。シニアは、オブザーバー参加又はお手伝いをお願いします。

6. 企業展示（資材・工法展示）

日時：2025年9月8日（月）10:15～17:30

9日（火）8:45～14:00

会場：芝蘭会館2階ロビー

出展者（50音順）：

株式会社 グリーンエルム

グリーン産業 株式会社

日本工営 株式会社

ロンタイ 株式会社

7. 現地見学会

「大阪・関西万博における未来の緑の活用と管理」

(1) 概要

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が大阪の夢洲で開催されます。現在、大阪では、JR大阪駅、阪急・阪神・大阪メトロ梅田駅など交通の中心部でもある場所において、グラングリーン大阪やグランフロント大阪といった経済活動の大きな場を初め、緑豊かな空間づくりが産官学によって実装されてきています。また、大阪府内でも府営公園や市営公園の緑化の取り組みを初め、グリーンインフラの実装による緑の都市空間が作られてきています。

そのような中で今回開催される大阪・関西万博のコンセプトは「People's Living Lab 未来社会の実験場」です。「緑」にも着目されており、会場の様々な場において緑の利活用が

推し進められています。本大会の現地見学会では「大阪・関西万博における未来の緑の活用と管理」をテーマに、これから先の未来の緑のあり方、利活用の仕方について見て学びます。加えて、夢洲という海上会場といった環境での緑の管理について見ていただこうと考えております。現地では、大阪・関西万博の管理運営を進めてきた公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会の担当者、また施工管理をしている企業の担当者から、それぞれ説明していただくことになっています。

未来に向けた大阪・関西万博の「みどり」を実際に会場で見えて感じましょう。

(2) 実施日時

2025 年 9 月 10 日（水）

8:50	大阪・関西万博会場 東エントランス広場 集合
9:30～11:30※	全体概要 公社）2025 年日本国際博覧会協会 石田紘之 氏 大屋根リング上部植栽 大和リース（株） 山舗和徳 氏 静けさの森 （株）日建設計 岩田友紀 氏 森になる建築 （株）竹中工務店 槌尾 健 氏
11:30～※	大阪・関西万博会場の自由見学、自由解散

※ 当日の混雑状況により、現地見学会の開始・終了時刻が前後する可能性があります。

8. 大会運営委員会

委員長：今西純一（京都大学）

委員：貫名 涼（京都大学）、深町加津枝（京都大学）、福井 亘（京都府立大学）、
岡田準人（大阪産業大学）

〔事務局連絡先〕

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院 農学研究科 森林科学専攻 環境デザイン学研究室内

第 56 回日本緑化工学会大会事務局

TEL：075-753-6099（貫名） FAX：075-753-6082

メール：ryokkako.taikai.56★gmail.com

※メールアドレスの★は@に置き換えてください。